

第52回大会主催者挨拶

ご多忙の中、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、代議員、役員のみなさん、こんにちわ。心より感謝と連帯のご挨拶を申し上げます。

最初に、この2年間の中で、志半ばで亡くなりました会員の方々に感謝し、黙とうして哀悼の意をささげたいと思います。ご起立ください。

さて、今年はバンドン会議60年、日本AALA創立60年の記念すべき年です。いまほど日本AALA60年の歴史が輝き、存在価値の発揮を求められている時はありません。

世界は紆余曲折や巻き返しもありますが、バンドン精神が息づき、日本AALAが掲げる平和、非同盟、国民本位の豊かな国際社会をつくる、その方向に向かって進んでいます。

また、経済面でも南アフリカなどBRICSに代表されるようにアジア、アフリカ、ラテンアメリカなどの諸国の発展が、先進諸国を凌駕しつつあります。

しかもこれら平和や経済は、地域共同体として追求され、着実な前進をしています。キューバとアメリカの国交回復、イランの核問題の合意などの背景にはこの動きがあると確信します。逆に、中東やアフリカの難民問題の背景と遠因には、アメリカの無法なイラク攻撃など、大国の思惑による軍事同盟などによる武力介入や、新自由主義経済による貧困と格差の広がりがあることも明らかです。

その中で、日本政府はどうでしょうか。安倍内閣は「積極的平和主義」と称し、憲法解釈を閣議で改悪し、アメリカの戦争に、いつでも、どこでも自衛隊が参戦できるよう、暴力的強行採決によって戦争法を成立させました。

日本AALAは、2年前の第51回大会で、

第一にこの世界の平和の流れを促進するために、

第二に、安倍内閣の軍事同盟強化の方針に対抗するために、ASEANやCELACのような、「平和・協力・繁栄の東アジア共同体」をつくるためにNGOとして貢献する方針を決め、学習、交流、行動と、一步一步取り組みを進めてきました。

日本の様々な組織との話し合いは当然ですが、駐日各国外交団との懇談、ASEANを訪問しASEAN本部や政府関係者、NGOとの懇談など積み上げてきました。どの方からも歓迎され「皆さんの運動は共感を呼びます」と励まされました。

世界の情勢と平和の共同体についての全国縦断学習講演会には、ここにご臨席のベネズエラ、パレスチナの大使閣下、緒方靖夫日本共産党副委員長、キューバとラオスの大使閣下のご協力で大きく成功しました。

5月24日の、国連大学ウタントホールでの「平和・協力・繁栄の東アジア共同体」の展望を話しあう国際シンポは、日本、韓国、中国、インドネシアからパネリストをお招きし、定員350名の会場を一杯にして成功し、今後の運動に大きな指針とエネルギーを蓄えました。この報告集が今日完成しました。ぜひ、普及してください。

パネリスト、各大使館、運営にご協力いただいた方々は当然として、参加者の組織をはじめ成功のために尽力された都道府県の組織の役員の皆さん、シンポに参加された方々に、敬意とお礼を申し上げます。

これらの運動を推進するために、また、結合して、日本AALAの本部・地方組織の強化や運営にも努力してまいりました。これは経過報告で申し上げます。

皆さん、これからが闘いや運動の本番です。

強調したい運動の第一は、「戦争法」廃止の運動です。

日本AALAの非核・非同盟の方針に真っ向から挑戦する、憲法破壊、軍事同盟強化のこの「戦争法」廃案に向けて、全国の会員の総意を生かし様々な場面で頑張りました。これからは「戦争法」を発動させない、廃止させる闘いになります。

この闘いに応えるように、日本共産党が三つの提案をしています。第一は、戦争法廃案、安倍内閣打倒、第二に「戦争法」廃止、立憲主義を取り戻す国民連合政府樹立、第三に当面の参議院選挙、衆議院選挙において選挙協力も行う。この3つを国民が力を合わせて進めようというものです。

私はこの提案を歓迎し、「戦争法」廃止のため、今次大会で決定する日本AALAの方針と運動の発展と結合し頑張りぬきたいと思います。

その展望は十分にあります。

その第一は、何と言っても「戦争法」は戦後70年、日本国民の血となり肉となった憲法を踏みしめるものであることです。そして、これを許さず、憲法擁護、「戦争法」反対の広い広がり、国民の自覚的意識の大きな発展です。

もう一つは、「対立から協力へ」「軍事同盟から平和の共同体へ」という世界の流れに逆らうものだからです。また憲法9条の平和主義によって築かれてきた世界からの日本への信頼と期待を裏切るものだからです。2012年、非同盟諸国首脳会議に参加した際、まさに今の情勢に先駆けて日本の対米従属ぶりと米軍基地の実態を示したパンフを各国首脳に配布し話し合いをしました。多くの方は「日本のような先進国がこのような対米従属状態にあることに驚いた」との声と共に「日本にこのような状態と闘う組織があることに敬意を表します」、「この会議に参加している国の多くは、少し前までは似たような状態だった。頑張れば展望が開かれます」と励まされました。

世界の流れに逆らう安倍内閣に未来はありませんし、まさに、日本AALAの出番です。

これまで積み上げてきた非核・非同盟、世界の非同盟諸国との連帯を、特に民間レベルで発展させましょう。その一環として、パレスチナへの武力攻撃を許さず国家承認を支援する運動を強化しましょう。また、ベネズエラなどへのアメリカの内政干渉や民族自決権侵害を許さない世論を喚起しましょう。

そして、「平和・協力・繁栄の東アジア共同体」建設の運動と共に、各国が切実な問題で協力しあい信頼を醸成し、戦争を未然に防ぎ紛争を話し合いで解決することを求める国際署名を大いに広げましょう。この取り組みと結合して、「戦争法」廃止の運動を国民と共に進めましょう。

この歴史的な運動を進めるには、組織の拡大強化は必須事項です。すべての都道府県に組織建設、1万人の組織、当面、次の大会までに5000人の組織めざしてがんばりましょう。

最後に、今次大会が成功し、力を合わせて歴史的任務にまい進できますことを訴えて、ご挨拶とします。